

自施設《職場》実習オリエンテーション

1) 自施設実習の目的

研修で学んだ内容を活かして、認知症の人や事業所・スタッフのニーズを明らかにするためのアセスメントができ、かつアセスメントの内容をもとに、認知症の人の生活支援に関するものと支援者の認知症ケアの質の向上の為に目標設定、ケアの実践に関する計画やケアの実践を展開できる。

2) 到達目標

- ① 研修で学んだ内容を活かして、認知症の人や事業所・スタッフのニーズを明らかにできる、アセスメント及び評価ができる。
- ② 認知症の人の生活の質の向上を目的にした実践計画を遂行できる。
- ③ 実践計画を基に各事業所の理解を得ながら、認知症の人の生活支援に関する実践を展開できる。

3) 実習の視点

- ① 講義で学んだ認知症介護の知識・技術を実践的に活用するための姿勢を学ぶ。
- ② 感受性を磨き、相手の立場で考える習慣をつける。
- ③ なぜか？どうしたらよいか？これでよいか？と考える習慣をつける。
- ④ 認知症介護を実践している者としての自己を振り返る場とする。

4) 職場実習の留意点

- ① 研修生個人の介護実践の向上のみで終わらない工夫が求められます。
- ② 研修生の所属する事業所全体の協力が不可欠です。
- ③ 実習が研修生個人の成果で終わらないように、職場実習においては、研修生所属の事業所の長は実習評価等の役割をもって実習への参加、協力を行う。
- ④ 実習に先立ち、職場内の他の職員も趣旨を理解し、研修生の実習目的と目標実習内容、実習スケジュールが、周知されていることが求められる。
- ⑤ 職場実習の目的ならびに目標は、実践研修全体の目的に沿ったテーマ設定であることが望ましい。
- ⑥ 職場実習は、研修のために展開されるものではなく、認知症介護の質を向上させるために、現場で実践できる、もしくは、今後実践の可能性のあるものが望ましい。
- ⑦ 自分のケアを振り返る、見つめ直す機会です。客観的視点をもって臨む必要がある。

5) 実習の展開方法

自施設実習の流れ

科目名	場所・時間・期間
1、自施設実習の課題設定	研修会場(オンライン) 420分
2、自施設内での実習オリエンテーション	自施設・事業所
3、自施設実習 前期 (アセスメントとケアの実践)	自施設・事業所 4日間(8時間×4日)
4、実習の中間報告会①	研修会場 210分
5、自施設実習 中期 (ケアの実践)	自施設・事業所 7日間(8時間×7日)
6、実習の中間報告会②	研修会場 210分
7、自施設実習 後期 (ケアの実践・評価)	自施設・事業所 8日間(8時間×8日)
8、自施設実習評価(報告)	研修会場(オンライン)

1. 「自施設実習の課題設定」

事前の準備について

研修受講生は「自施設実習の課題設定」までに、アセスメント・実践計画を検討したい認知症の人(対象者)を1事例準備し、「自施設実習事例概要シート」へ対象者情報を記載し、事前に確認(把握)してから研修に望むこと。自施設で使用しているフェースシートやアセスメントシートなど実習の取り組みに対して必要な情報も併せて確認する。個人情報には十分に注意をし、倫理的配慮として、個人が特定される情報を記号化する。

自施設における実習の課題設定

自施設課題設定には事前に記載した「自施設実習事例概要シート」と事業所で活用しているアセスメントシート等を活用し課題設定を行う。自施設課題設定は「アセスメントとケアの実践の基本Ⅱ」で実施した流れに沿って「取り組み計画書①」を作成する。

2. 「自施設内での実習オリエンテーション」

自施設・事業所（上司・チーム・事例対象者等）へ「取り組み計画書①」に基づき、実習の目的・展開内容及び協力してもらう内容に関して説明し同意を得る。必要であれば再検討（修正）を行う。事業所スタッフに実習についてのスケジュールについてチーム内での共有及び調整を行う。

3. 「自施設実習 前期＜アセスメントとケアの実践＞」

実習生自身が課題設定で行った原因分析の視点に対して

- ①認知症の人や事業所スタッフからの聞き取りや日々の関りを通して、原因分析（アセスメント）」が妥当であるかを観察して確認する。（2日間）
- ②実習生自身が立てた取り組みを実践してみて、原因分析や「取り組み（手立て）」が妥当であるかを確認する。（2日間）

4. 「実習の中間報告会①」

自らが行ったアセスメント（原因分析）や取り組みが妥当であったのかを、前期の記録やアセスメントシート、課題分析シートを基に担当指導者と面談による確認を行い、具体的な実践計画書（取り組み計画書②）を作成する。

5. 「自施設実習 中期 ＜ケアの実践＞」 7日間

- （1）作成した取り組み計画書②のスケジュールに基づいて実践する。
- （2）実践した内容はすべて記録に残す。
- （3）今回取り組んだ実践の達成度を確認し、取り組み計画書②への記入を行う。

6. 「実習の中間報告会② ＜実習の実践状況の確認及び報告＞」

担当指導者とともに、自施設実習の記録による取り組み状況や達成状況を確認し、今後の結果や考察に向けての不足部分や追加項目に沿って「取り組み計画書③」を作成し、まとめに向けて残りの実習で行うべきことを明確にする。（評価にむけての確認）

7. 「自施設実習 後期＜ケアの実践・評価＞」 8日間

- （1）作成した取り組み計画③に基づいて実践する。
- （2）実践した内容は記録に残す。
- （3）認知症の人の生活支援に関する実践（取り組み）に対する評価を行う。

8. 「自施設実習評価＜報告＞」

アセスメントやケアの実践に関する計画の実施結果を整理したうえで、客観的に評価、分析して今後の課題を明確にする。

- ① 実践内容の整理・評価を行う。支援計画及び実践成果に対する自己評価を行う。
- ② 実施した実践計画を整理し他者へ伝える。
- ③ 認知症の人にとって有益な実践であったか客観的に評価する。
- ④ 事業所やスタッフにとって有益な実践であったかを客観的に評価する。
- ⑤ 結果を分析して今後の課題を明確にする。

発表の視点

テーマ：今回の実践（取り組み）内容を要約して記入する。
 目的：今回の実践（取り組み）の経緯と目標について記入する。
 方法：実習で実践した作業方法について記入する。
 結果：今回の実習の成果からわかった事、見えたこと、読み取れたこと等について記入する。
 考察：結果で分かった事や読み取れたことの要因などについて記入する。
 今後の課題：今回の取り組みが、認知症の人に対してどのような影響を与えたか、また今後につなげていきたいことについて記入する。